



鞍岡小学校運動会にて ワンショット! (9月22日)

慧 光

金光寺寺報
第148号
発行所 金光寺
宮崎県西臼杵郡
五ヶ瀬町大字鞍岡
5927番地
0982
83-2338

今月のことば 世の中が便利になって一番困っているのが実は人間なのです (浅田正作)

今月の言葉は、浅田正作さんの念仏詩集『骨道を行く』のなかの「人智」と題されているものです。仏さまの智慧、仏智に対して、人間の智慧ということでしょうか。便利な世の中が困ったことと思えないのが、人間の智慧なのでしょう。便利になって良かったとよるこぶばかりで、それが将来どのようなことになっていくのかさえわかりません。現に、人間の智慧を尽くして過去に作り出した化学物質が、人間も含めた地球環境に及ぼす悪影響は、はかり知れず、それが困ったことという認識さえないというのが、人間の愚かさでしょう。また便利という言葉は、どこまでもいまを生きる人間にとって都合が良いように見えるということではなかったのです。便利で快適な生活を追求するあまり、自分たち人間の都合のみを優先して、後の世代の人びとや、地球のことを省みな

かったのではないのでしょうか。いのちの本来のあり方を見失わせ、困ったことであつたと気づかせてくださるものこそ仏智であり、南無阿弥陀仏のはたらきそのものなのです。仏の智慧に照らし出されて初めて、人間の智慧の暗さに気づかせてもらいます。私たちは、便利な生活に慣れきってしまい、当たり前という深い闇のなかに、闇を闇とも気づかないまま過ごしているのではないのでしょうか。人間の智慧の限りを尽くしたこの世の中の便利さが、実はその人間本来のあり方を見失わせ、人間性をも奪い取ってしまう困ったものだったのです。そのことを常に教えてくれるものに出遇っていかないと、その深い闇に飲み込まれてしまいます。

(本願寺出版社刊「大乘」誌より転載)

金光寺よろずコーナー

この度、門徒会館の使用料を改定しましたので、お知らせします。

お通夜使用料	30,000円
葬儀使用料	50,000円
一般使用料	
法事	10,000円
その他	20,000円

(その他とは、お通夜・葬儀には会館を使わないが、自宅でのお通夜・葬儀の準備としての煮炊き、組内の食事提供場所として会館を使用する場合のこと)その他の注意事項
会館使用に際しては、使用後の掃除をお願いしています。最近の使用状況をみると掃除が完全に行われていません。備品の持ち出しは禁止しています。持ち出しをされると備品が無くなりますので、備品持ち出しはご遠慮ください。

9月、次の金光寺門信徒の方がご往生なさいました。謹んでお悔やみ申し上げます。

2013年	9月12日	寂	満60歳
			沼田義雄様
2013年	9月16日	寂	満87歳
			中園西田ユキ子様
2013年	9月22日	寂	満57歳
			荒谷村山礼子様

ホームページ開いています。
URL <http://konkhoji.jp>
10月8日現在 アクセス数 57,848人

今年も境内に板のフェンスを設置しました。それを見た人から「コンクリート舗装、すると」と質問をいただきましたので、「落ち葉が広がらないように設置しています」とお答えしたことでした。例年どおり、落ち葉に悩まされる季節です。でも台風二十四号が近づいているので、米が倒れたり、土砂災害が起こらない程度に風が吹いて、境内の木々の残っている葉っぱが無くなれば良いなど、不埒な考えをしています。昨年、九月十日に当山のホームページを開きました。先月十日で、一周年を迎え、アクセス数は五万三千七百九十一にもなりました。多くの方にアクセスしていただきとても感謝しています。一日当たり約百四十七人の方に入室していただいていることになりました。ホームページでは無いのですが、ほぼ毎日更新するページがあるのをご存じの方も多いと思います。寺報同様、ホームページも見ていただければと思います。(住職 松井卓郎)

住職ひとりごと

仏教用語豆辞典

根 性

夏の高校野球の真つ最中です。連日、甲子園球場では熱戦が繰り広げられています。なにしる、地方の予選から甲子園大会の決勝戦まで、一度負ければ姿を消すという過酷な戦いですが、そこには幾多のドラマが展開され、根性物語が語

られています。現在、一般に使われている根性には、二つの意味があるようです。一つは、その人の生まれつきの根本的な性質で、「心根や性根」と同じ意味ですが、「根性悪」「ひがみ根性」「根性まがり」果てには「根性をたたき直せ」など、どうも悪いニュアンスが漂っているようです。二つは、激しい訓練にもくじけない強い気力を指しています。選手たちの根性物語はこの方

仏教では、仏の教えを受けざる者としての、宗教的素質、能力や性質のことを、根性といいますが、根性には優劣があつて、仏はその人の根性に依じて、教えの内容や説法の仕方を変えたといわれています。選手の方、日ごろの厳しい練習の成果を発揮してください。(本願寺出版社発行 辻本敬順著 「仏教用語豆辞典」一〇〇ページから)

阿弥陀仏のお徳

九月十七日、仲秋の名月見ましたか？きれいでしたね。「三年連続満月の仲秋の名月」とのテレビ放送に「？」。仲秋の名月はいつも満月とばかり思い込んでいた私にとってはとても驚きでした。

インターネットで調べると、仲秋の名月とは旧暦八月十五日（いわゆる十五夜）に満月あるいはもつとも満月に近い月のことをいうのだそうです。ご存知でしたか。ちなみに、旧暦九月十三日の月を「十三夜」といい、旧暦十月十日の月を「十夜」とおんや」というそうです。また、「十五夜」あるいは「十三夜」の一方だけを見ることは「片見月」といい、両方見ることが大事とのことでした。

になりますね。

そんな月に関連してもう一つ教えていただいたことがあります。本願寺出版社発行の「大乘」九月号で本願寺派総合研究所教学伝道研究室長満井秀城司教執筆で連載されている「金言礼讃」の一文です。

原文のまま紹介します。
（前略）曇鸞大師は『往生論中』に、「一念遍至」と「不動而至」の徳を示しています。この『論註』では、浄土の菩薩の徳として説かれています。浄土の菩薩の徳は、すべて阿弥陀仏から頂戴した徳ですので、これは、そのまま阿弥陀仏のお徳といえるでしょう。
「一念遍至」とは、月は一つでも、庭の池やバケツにも、水が入っているものには、みな同じように、遍く直ちに月影が映

ることを言います。阿弥陀仏おひとり、十方衆生を一度に育しく救うためには、このお徳が不可欠です。

池の水を手にくい、手の中の水に月が映っているのを見た人が気づきました。「月は遠いところにあると思っていたが、私の手の中にもあったのか」。月自体は空から降りてきませんが、月影は手元に届いています。これが「不動而至」です。十億の仏土を過ぎた西方浄土に居られる阿弥陀仏が、つねに私のもとに至り届いてくださっているのです。

この文章は、『仏説観無量寿阿弥陀仏』というお経さまの中、此を去ること遠からず



というお言葉の解説をされた中のもので、『仏説無量寿経』や『仏説阿弥陀経』というお経さまに示される「これより西方十億の仏土を過ぎたところ」に極楽という名の浄土がある。の言葉からすれば、阿弥陀さまは私たちからすると、はるか遠くにいらつしやるように思えますが、「あなたが知っているかどうかかわからないが、阿弥陀仏は、この世界から遠くはない」と示されるのが、『仏説観無量寿経』に明らかにされるこの文のこころです。

それを私たちにわかりやすく示されたのが、曇鸞大師の「一念遍至」であり、「不動而至」のご文です。
理屈で考えると、はるか遠くにまします阿弥陀仏ですが、実は迷える私たち一人ひとり全てを齊しく、直ちに救ってくださる、迷えるこの身に寄り添ってくださることに気づかせていただく「名月」を縁とし、お経さまをもとにした曇鸞大師の尊いお示しでした。

法語の世界

〈原文〉

總体、人にはおとるまじきと思ふ心あり。この心にて世間には物をしならふなり。仏法には無我にて候ふへは、人にまけて信をとるべきなり。理をみて情を折るこそ、仏の御慈悲よと仰せられ候ふ。

（蓮如上人御一代記聞書 百六十）

〈現代語訳〉

「概して人には、他人に負けたくないと思ふ心がある。世間では、この心によって懸命に学び、物事に熟達するものである。だが、仏法では無我が説かれるからには、われこそがという思いもなく、人に負けて、信心を得るものである。正しい道理を心得て、我執を退けるのは、仏のお慈悲のはたらきである」と蓮如上人は仰せになりました。

2013(平成25)年恩講・秋参り日程(予定)のお知らせ

本年の恩講・秋参りの日程について予定をお知らせします。恩講はすでに期日が決まっている地区だけ日程を書いています。恩講の期日が未定の地区(深谷・折立・矢惣園、倉本、古賀西)は早めに日程の相談をお願いします。秋参りは、過去の状況を参考に大まかな予定を立てました。あくまでも予定です。葬儀、仏事や恩講が入りますと日程を変更します。遠方(熊本、益城町、阿蘇市、高千穂町、延岡市、日向市、宮崎市)と渡瀬、中入・大平、馬見原の秋参りは八ガキでお参りの日を連絡します。なお、秋参りは連絡なしで伺います。お留守でもお参りさせていただきます。よろしくお願ひします。お茶の接待はご遠慮申し上げます。

恩講		秋参り	
11月	2日	大石の内	10月15日
11月	6日	古賀東	10月16日
11月	9日	広瀬・波帰	10月18日
11月	12日	小川	10月21日
11月	17日	本屋敷	10月22日
11月	18日	水流・木合屋	10月23日
11月	19日	長峯	10月29日
11月	20日	揚	
11月	22日	スクナ原・原尾野	
11月	23日	萩原の上	
11月	24日	道谷	
12月	4日	荒	